

2025年12月4日

電通、FIFA ワールドカップ 2026 の国内における放送権を取得 － 視聴者ニーズに応える多彩な視聴方法で、日本全体に応援の輪を －

株式会社電通（本社：東京都港区、代表取締役 社長執行役員：佐野 傑）は、2026年に開催される「FIFA ワールドカップ 2026」の国内における放送権（放送・配信を含む総合的なメディアライツ）を取得しました。大会は2026年6月11日から7月19日にかけて、カナダ、メキシコ、アメリカの3か国で開催され、48 チームが出場し、全104試合が行われます。当社はこの権利取得を通じて、日本国内の幅広い視聴者に世界最高峰のサッカーの魅力を、テレビ放送や動画配信サービスなど多彩な視聴方法で届けることを目指します。

世界最大級のスポーツ大会であるFIFA ワールドカップは、日本国内でも高い注目を集めています。今回、当社は、ひとりでも多くのファンに日本代表戦を観戦してもらうことを目指す日本サッカー協会（JFA）やJリーグの想いに賛同し、放送局やOTT（動画配信サービス）事業社と連携し、日本全体で大会の熱狂を共有できる体制の構築に取り組んできました。こうした取り組みを通して、大会を主催するFIFA（国際サッカー連盟）から権利を取得するに至りました。

計画している放送・配信体制では、日本代表戦は地上波でのライブ放送を含む複数形態での放送を予定しており、従来通り幅広い視聴者がSAMURAI BLUE（サッカー日本代表）の活躍を観戦・応援できます。さらに、動画配信サービスでは、日本代表戦を含む全104試合がライブ配信される予定です。これにより、開催地と日本で長時間の時差がある今大会で、視聴者が自身に合ったスタイルで試合を楽しめる環境が整い、サッカーの熱狂と感動を日本全体で共有できる体制が実現します。

当社は今後も、世界的なスポーツイベントを通じて、スポーツ界やメディア、クライアント・地域・社会の継続的な成長に貢献してまいります。

FIFA 最高ビジネス責任者 チーフ・ビジネス・オフィサー（CBO） ロミー・ガイ氏

「私たちFIFAは、日本での長年にわたる電通とのパートナーシップをさらに強化できることを大変嬉しく思います。日本はFIFA ワールドカップ 2026への出場を最初に決めた国です。電通の革新的な取り組みにより、今回の大会では、地上波とOTTの強力な組み合わせによって試合が放送・配信され、日本のすべてのファンが大会を楽しめる充実した視聴環境が実現します。」

以上

dentsu Japan（国内電通グループ）は独自に定めた「スポーツビジネスに関するガイドライン」において、公正な事業活動の推進と業務遂行を通じて、スポーツに関連する事業の健全な発展とより良い社会づくりに貢献することを規定しています。

https://www.dentsu.co.jp/sustainability/sports_business.html



【リリースに関する問い合わせ先】

株式会社電通コーポレートワン ブランディングオフィス 広報室 広報部

河南、永野、早川、山中／Email：koho@dentsu.co.jp